

戦国初期の群雄割拠②

～中国・四国～

中国地方では大内氏と尼子氏が覇権を争う中、毛利氏が勢力を伸ばし、四国では長宗我部氏が力をつけ始める

中国地方の初期は**大内義興**と**尼子経久**の対立があった。大内義興は勘合貿易を掌握して勢力を伸ばし、周辺大名を従えて上洛も成し遂げた。尼子経久は守護代のときに月山富田城を奪って守護を追放し、山陰に基盤を作った。

両勢力の接点である安芸国では、国人が一致団結して惣を築いていたが、国人の1人だった**毛利元就**が惣の統率者となり、戦国大名化した。

四国の阿波は細川氏が支配していたが、のちに**三好氏**に取って代わられる。東讃岐は十河氏が三好氏の代官として勢力を伸ばして総括した。西讃岐は守護代の香川氏が毛利氏などと結んで三好氏と対立するが、善通寺合戦後、三好氏の支配下に入った。

伊予は守護の河野氏の勢力が衰えて、河野氏のほかに、宇都宮氏、西園寺氏の3氏によって分割された。

土佐では豪族が土佐中央部に割拠し、疎開してきた一条氏を盟主と仰いだ。のちに一条氏の援助によって再興した長宗我部国親・**長宗我部元親**が豪族や一条氏を追放し、土佐を統一する。そして土佐平定後、10年かけて1585年に四国を統一することになる。

中国・四国のおもな勢力



(((((((((((**知ったかぶり度チェックテスト**))))))))))

- Q1 大内氏と対立した出雲の戦国大名は誰？
 ①三好義継 ②尼子経久 ③宇喜多秀家
- Q2 四国の土佐を統一し、台頭したのは誰？
 ①毛利元就 ②北条早雲 ③長宗我部元親

戦国時代の幻の名城

安土城は信長が考案した天守を持っており、その壮麗さは家来の多くに影響を与え、のちの築城の手本となった

あづち
安土城は浅井、朝倉を滅ぼして、畿内をほぼ勢力下に置いた信長が、**1576年に築城を開始**した城である。

それまでの戦国時代の城は、山城が多く、防御に重点を置いた構造で、地味なものが多かった。しかし、安土城は7階の天守をもち、壮麗なものだった。

この「天守」は**信長が最初に考案**したとされる。

信長の家来たちはこの天守に感嘆し、自分たちが城を作る時にまね、一気に城スタイルの定番となった。

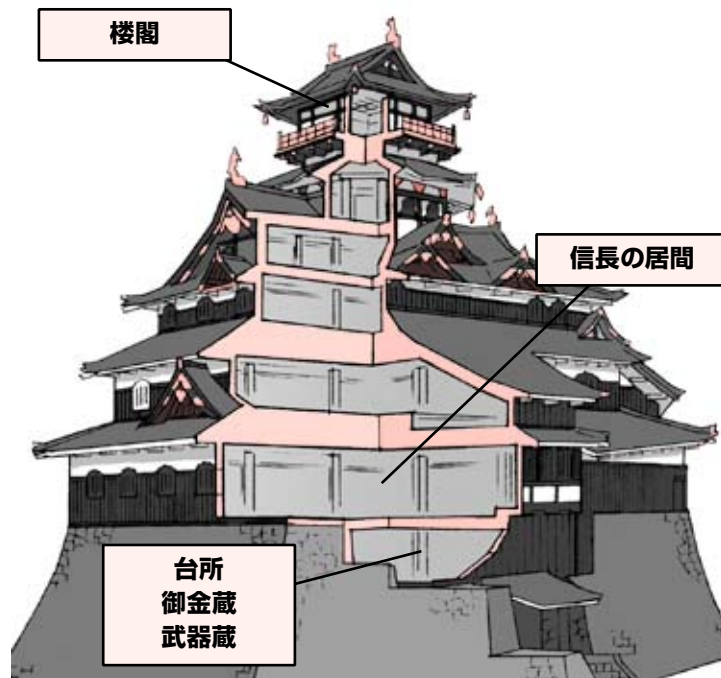
天守の1階は石垣に隠れた地下室で倉庫として使用された。**2階に信長の居室**があり、家臣と対面するための部屋も設けられている。3階、4階にも8～10室が配されている。

5階は屋根の破風内にある部屋で、6階は八角形の形をしていて、窓側には高欄(手すり)があったとされる。

最上階の7階は、柱はすべて黒漆で、**壁は金箔**で覆われていた。どの方角から見ても天守の最上階は金箔が太陽光に反射して、輝いて見えたことだろう。

この安土城の敷地内には、有力な武将の屋敷が設けられ、その中には徳川家康の屋敷もあったと伝えられる。この屋敷は信長が家康を信頼していた証でもある。

安土城の構造



(((((((((((**知ったかぶり度チェックテスト**))))))))))

Q1 信長が最初に考案したとされるのは何？

①天守 ②石垣 ③外堀

Q2 安土城で信長の居室があったのは何階？

①1階 ②2階 ③7階